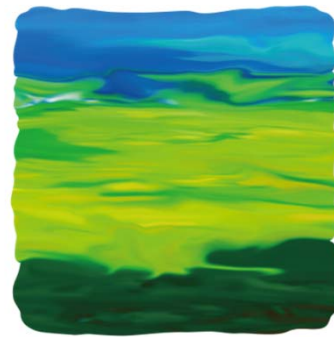


持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

2019年度半期決算概要説明資料



NORINCHUKIN

農林中央金庫

2019年11月21日

2019年度半期決算の概要

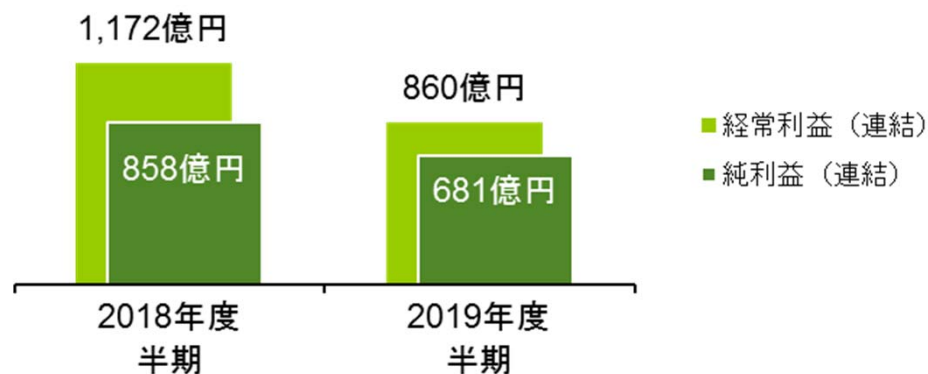
2019年度半期決算の総括

- 外貨調達コストの増加等を受け減益となるも、安定的に収益を確保。自己資本比率は引き続き高水準

収益

【連結】 (単位: 億円)

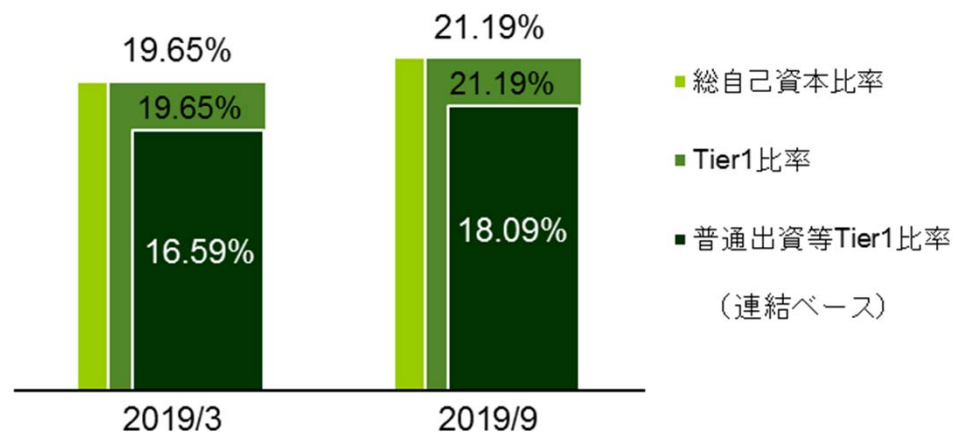
	2018年度 半期	2019年度 半期	増減
経常利益	1,172	860	▲ 311
純利益	858	681	▲ 176



自己資本比率 (バーゼルⅢ国際統一基準)

【連結】

	2019/3末	2019/9末	増減
普通出資等Tier1比率	16.59%	18.09%	1.50%
Tier1比率	19.65%	21.19%	1.54%
総自己資本比率	19.65%	21.19%	1.54%



損益の状況

■ 円高影響等による経常収益の減少および外貨調達コストの増加等を受け減益

【連結】

(単位: 億円)

	2018年度 半期	2019年度 半期	増減
1 経常収益	9,110	8,308	▲ 801
2 うち資金運用収益	6,822	6,437	▲ 384
3 (有価証券利息配当金)	6,178	5,656	▲ 521
4 (貸出金利息)	519	629	109
5 経常費用	7,937	7,447	▲ 490
6 うち資金調達費用	6,061	6,228	167
7 (信連等調達費用)	1,735	1,687	▲ 47
8 うち事業管理費	804	779	▲ 24
9 経常利益	1,172	860	▲ 311
10 税引前純利益	1,171	875	▲ 295
11 親会社株主帰属純利益	858	681	▲ 176

【単体】

	2018年度 半期	2019年度 半期	増減
12 経常利益	1,158	844	▲ 314
13 純利益	865	687	▲ 178

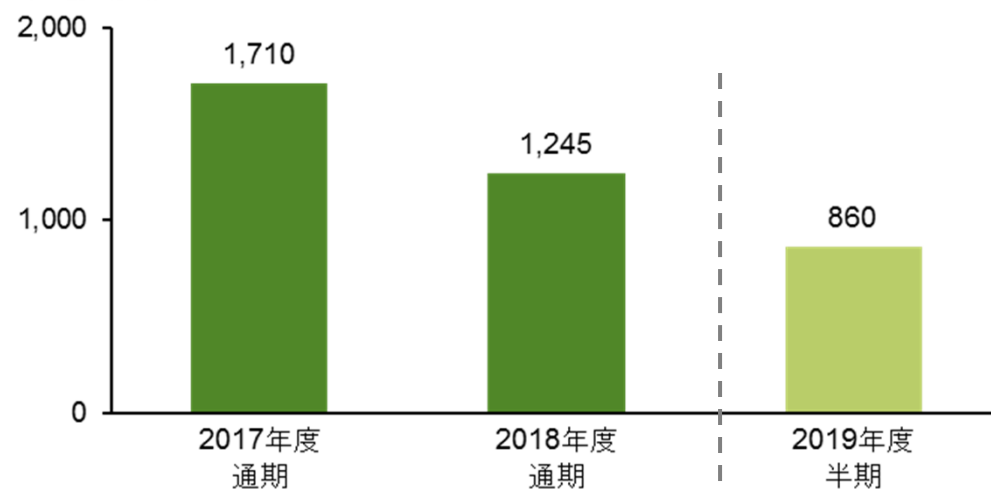
【参考値(単体)】

14 有価証券売却損益	261	513	251
15 与信関係費用(▲)(注)	▲ 1	5	7
16 有価証券償却(▲)	2	3	0

注: 与信関係費用のマイナス(▲)は戻入

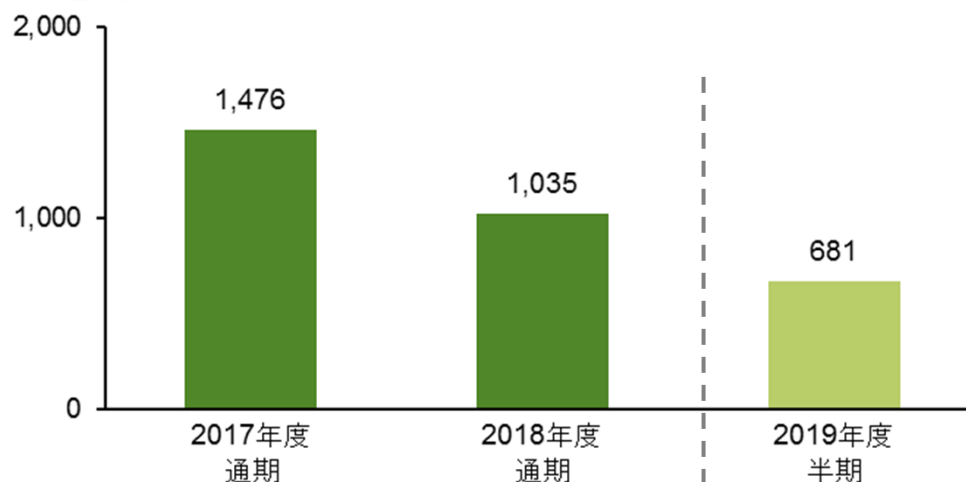
経常利益の推移 (連結)

(単位: 億円)



純利益の推移 (連結)

(単位: 億円)



バランスシート状況

国内外での企業融資等の伸長により貸出金は増加するも、売却・償還等により有価証券等は減少

【連結】

(単位: 億円)

	2019年3月末	2019年9月末	増減
1 貸出金	186,130	191,932	5,802
2 有価証券	556,587	554,248	▲ 2,338
3 金銭の信託	86,673	69,979	▲ 16,694
4 現金預け金	189,416	216,595	27,178
5 その他	40,731	51,225	10,493
6 資産の部合計	1,059,539	1,083,982	24,442
7 預金等(注)	678,451	682,821	4,369
8 農林債	12,542	10,077	▲ 2,464
9 売現先勘定	151,112	156,173	5,060
10 その他	142,699	157,202	14,502
11 負債の部合計	984,806	1,006,275	21,468
12 純資産の部合計	74,732	77,707	2,974

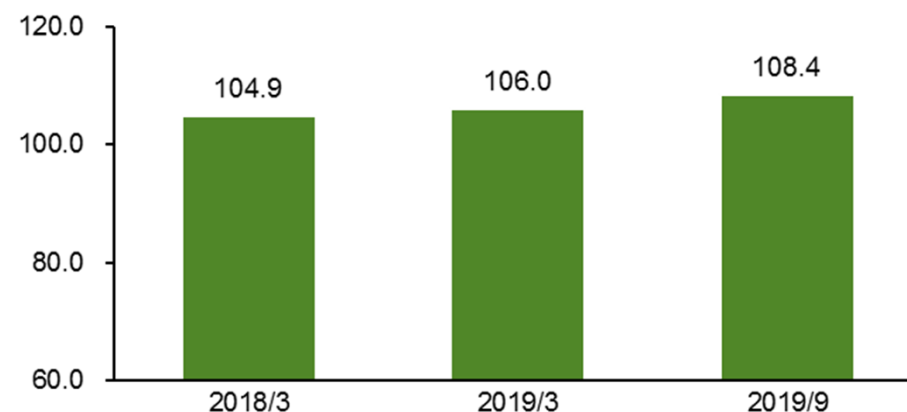
注: 預金等は会計上の預金および受託金(会員からの短期資金受入が大半)

【単体】

	2019年3月末	2019年9月末	増減
13 資産の部合計	1,041,768	1,064,797	23,029
14 負債の部合計	967,949	987,962	20,013
15 純資産の部合計	73,818	76,834	3,015
16 その他有価証券評価損益	20,699	27,915	7,215

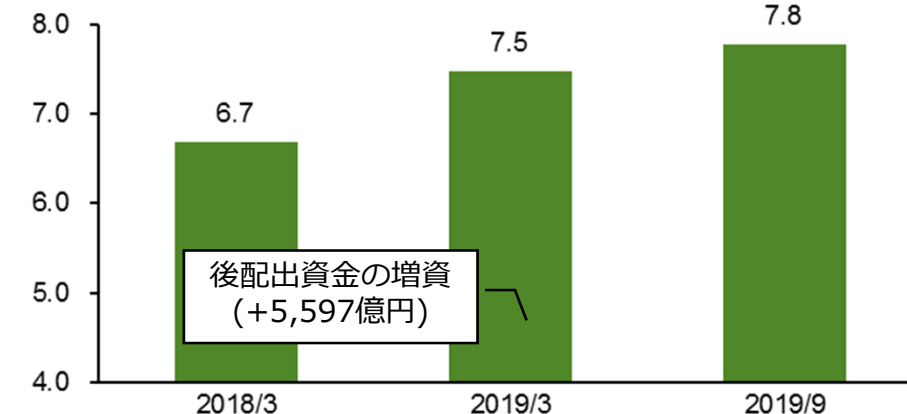
総資産の推移 (連結)

(単位: 兆円)



純資産の推移 (連結)

(単位: 兆円)

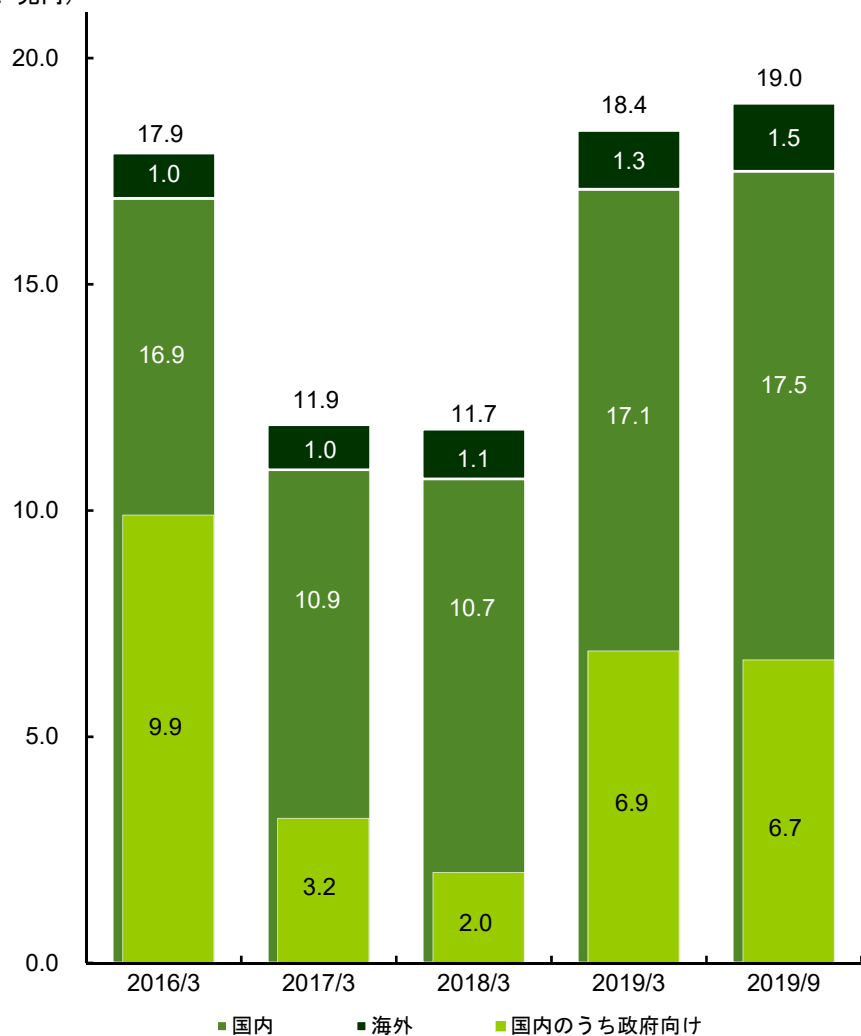


貸出金の状況（単体ベース）

- 国内外の企業融資等の伸長を受けて貸出金が増加

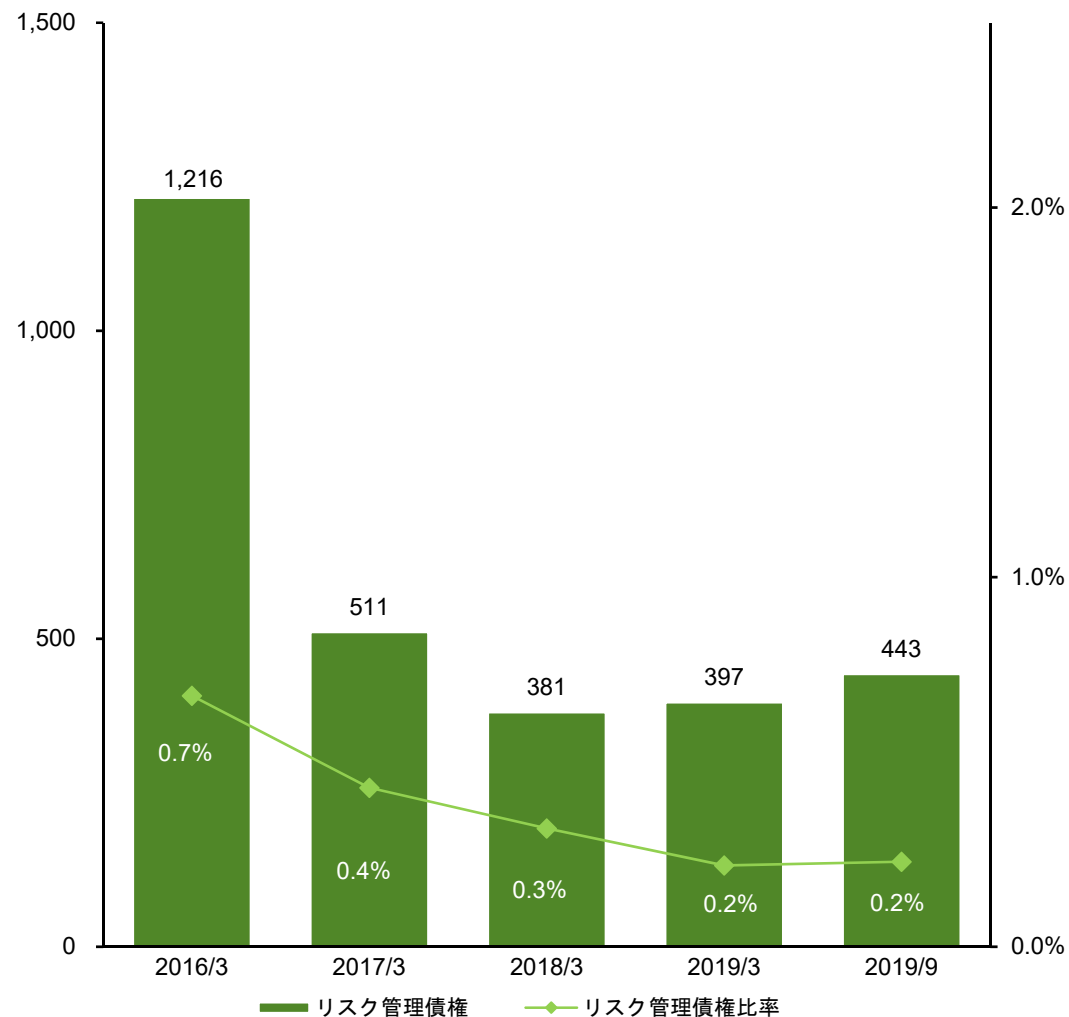
貸出金残高の推移

(単位: 兆円)



リスク管理債権の推移

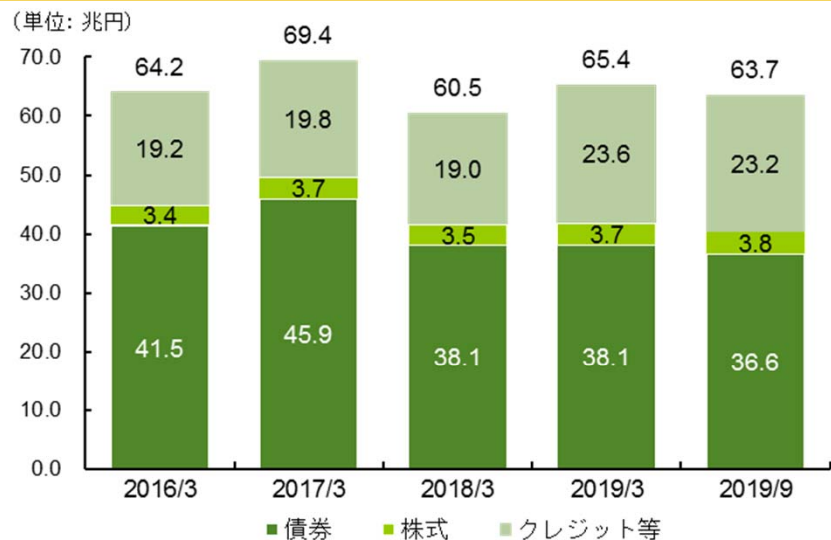
(単位: 億円)



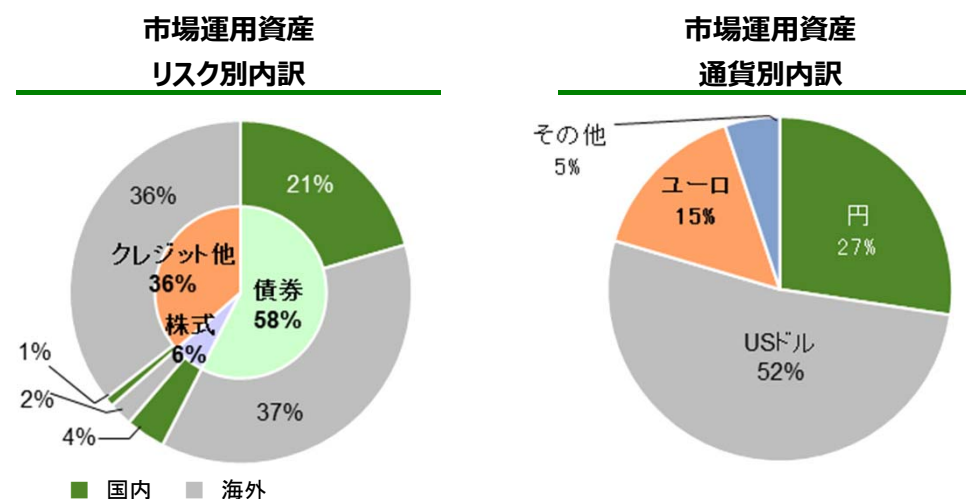
市場運用資産の状況（単体ベース）

- 有価証券評価益は2兆7,915億円。市場運用資産のうち約9割をA格以上の資産が占める

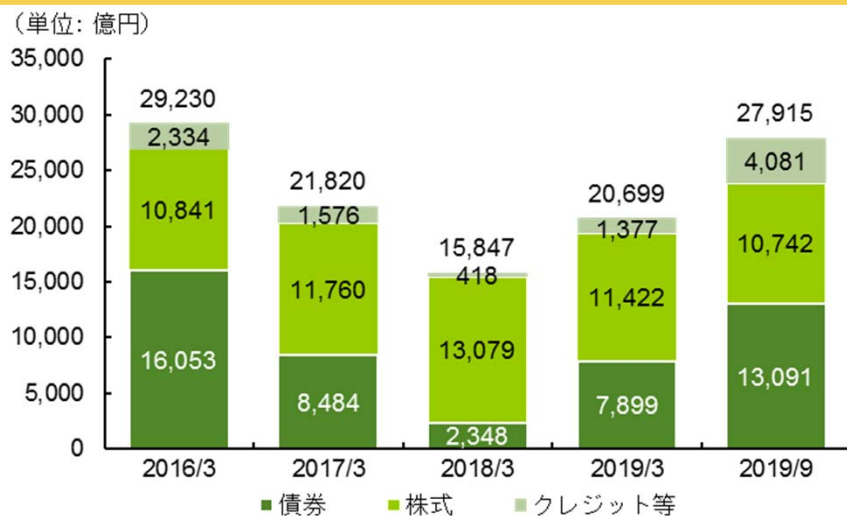
市場運用資産残高の推移



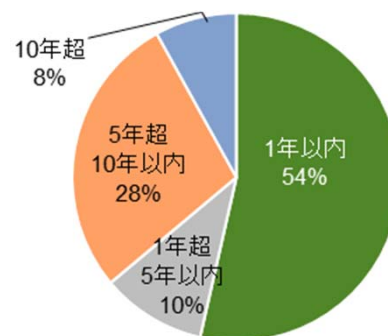
市場運用資産の状況（2019年9月末）



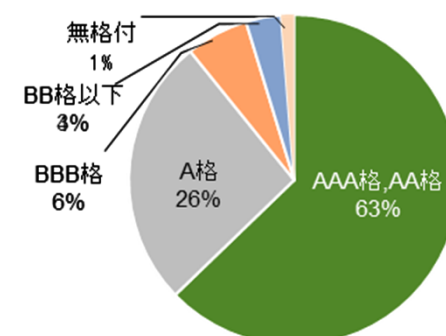
有価証券評価損益の推移



市場運用資産（満期がないものを除く） 金利更改満期別内訳



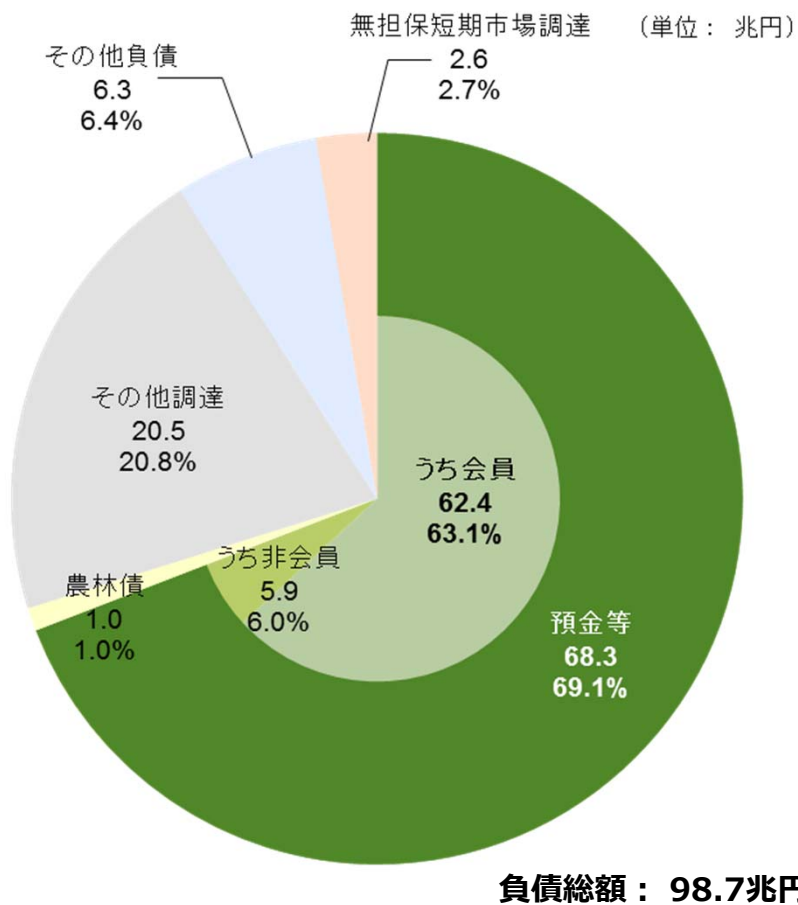
市場運用部門総資産 格付別内訳



資金調達状況（単体ベース）

■ 会員からの預金を中心とする安定的な資金調達を実施

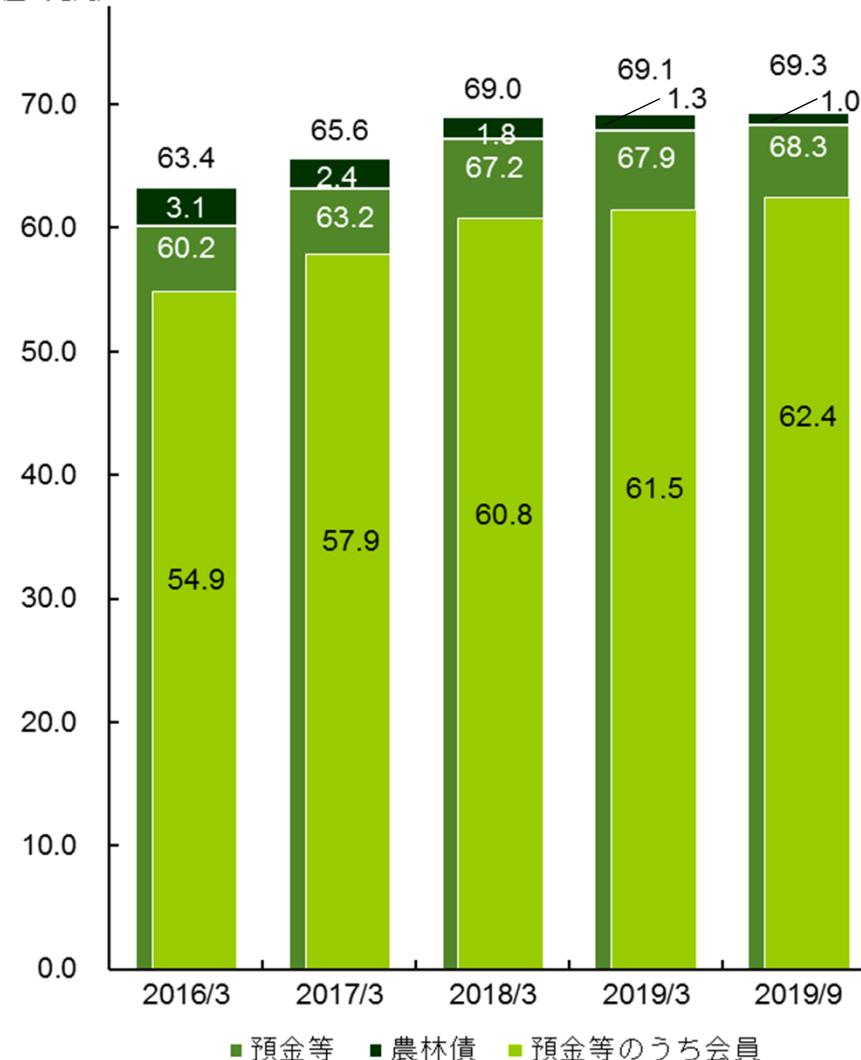
負債の種類別内訳



注：預金等は会計上の預金と受託金（会員からの短期資金受入が大半）。その他調達は有担保調達である売現先勘定・債券貸借取引受入担保金、および借入金（有担保、劣後ローン）等。その他負債は支払承諾、引当金等。無担保短期市場調達は特定取引負債、譲渡性預金および無担保コールマネー等

預金等・農林債残高の推移

(単位: 兆円)

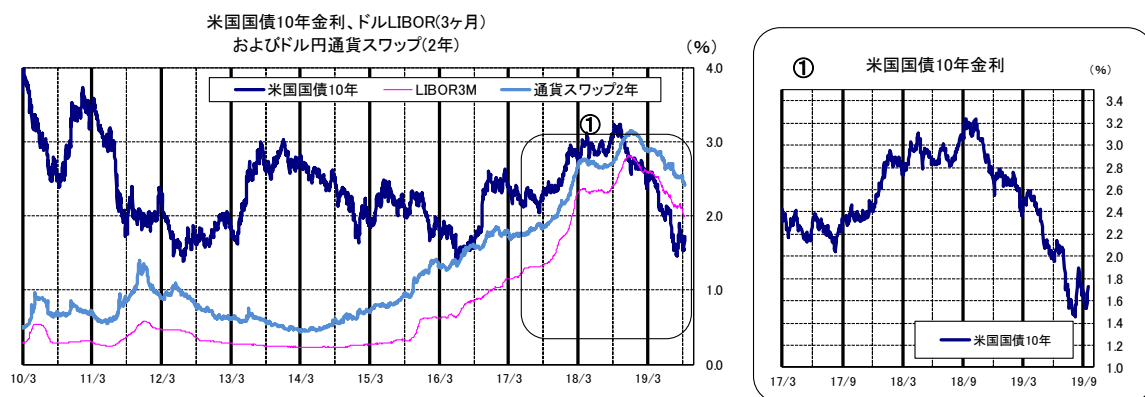


運用・調達利回り（単体ベース）

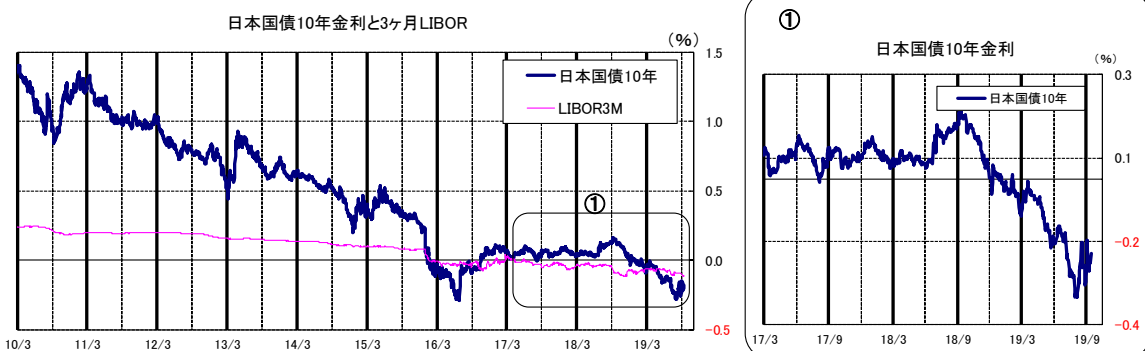
■ 有価証券等の利回りは低下。外貨調達利回りは上昇基調が継続

	平残 (単位: 兆円)		収支 (単位: 億円)		利回り	
	2019年度 半期	前期比	2019年度 半期	前期比	2019年度 半期	前期比
【運用の状況】						
1 貸出金	18.6	▲ 6.2	581	80	0.62%	▲ 0.18%
2 有価証券等	56.5	▲ 0.9	7,084	▲ 288	2.51%	▲ 0.14%
3 円貨建有価証券等 (収支は売却損益含む)	16.2	▲ 0.3	553	▲ 833	0.68%	▲ 1.06%
4 外貨建有価証券等 (収支は売却損益含む)	40.2	▲ 0.5	6,530	544	3.25%	▲ 0.24%
5 短期運用資産等	1.4	▲ 1.9	65	19	0.90%	▲ 0.62%
【調達の状況】						
6 信連等調達	61.3	▲ 0.3	1,687	▲ 47	0.55%	▲ 0.01%
7 農林債券	1.1	▲ 0.5	10	▲ 9	0.19%	▲ 0.06%
8 市場調達	25.9	0.0	1,808	305	1.39%	▲ 0.24%
9 円貨市場調達	4.1	1.1	▲ 4	▲ 3	▲ 0.02%	▲ 0.02%
10 外貨市場調達	21.8	▲ 1.1	1,813	309	1.66%	▲ 0.35%
(参考)						
11 外貨調達費用 (通貨スワップ等含む)	42.5	▲ 0.1	4,237	438	1.99%	▲ 0.22%

(参考) 米ドル金利の推移



(参考) 円金利の推移



自己資本比率等

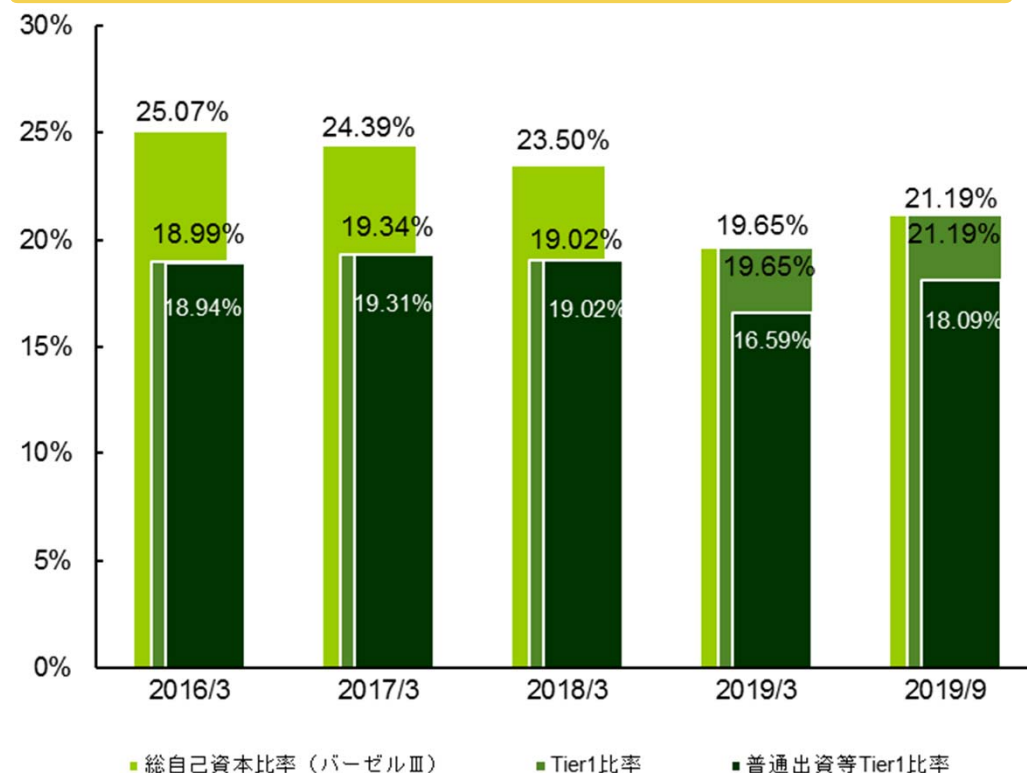
- 自己資本比率は有価証券評価差額金の増加を主因として上昇、引き続き高水準を維持

【連結】

(単位：億円)

	2019年3月末	2019年9月末	増減
1 Tier1	84,898	90,304	5,405
2 普通出資等Tier1(CET1)	71,705	77,108	5,403
3 うち資本金及び資本剰余金	40,152	40,152	-
4 うち利益剰余金等	19,215	19,897	681
5 うちその他有価証券評価差額金	15,017	20,221	5,203
6 その他Tier1	13,193	13,195	2
7 Tier2	11	12	0
8 うち劣後債務	9	9	-
9 総自己資本	84,910	90,316	5,406
10 リスク・アセット	432,002	426,039	▲5,962
11 普通出資等Tier1比率(CET1比率)	16.59%	18.09%	1.50%
12 Tier1比率	19.65%	21.19%	1.54%
13 総自己資本比率	19.65%	21.19%	1.54%

連結自己資本比率の推移



連結レバレッジ比率

	2019年3月末	2019年9月末
14 連結レバレッジ比率	7.87%	8.19%

連結流動性カバレッジ比率

	2019年度	1Q	2Q	3Q	4Q
15 連結流動性カバレッジ比率(注2)	320%	402%	-	-	-

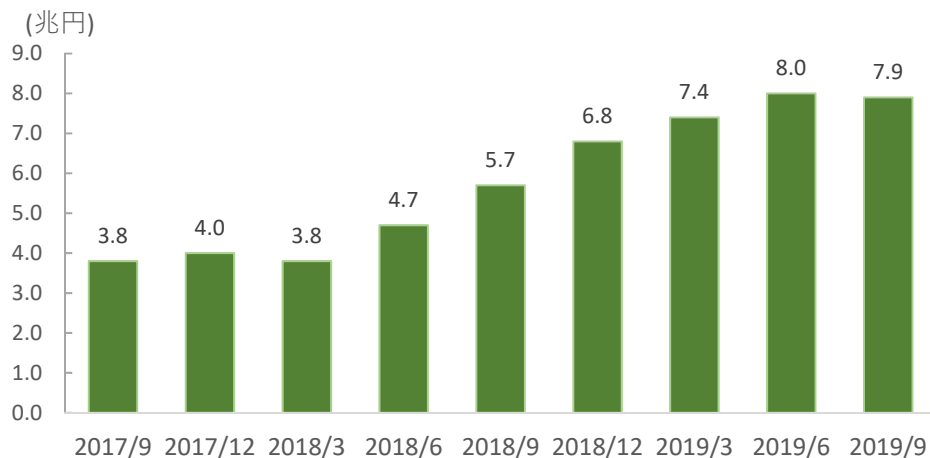
注：項目15は対象四半期の平均値

Appendix

市場運用資産(CLO)について

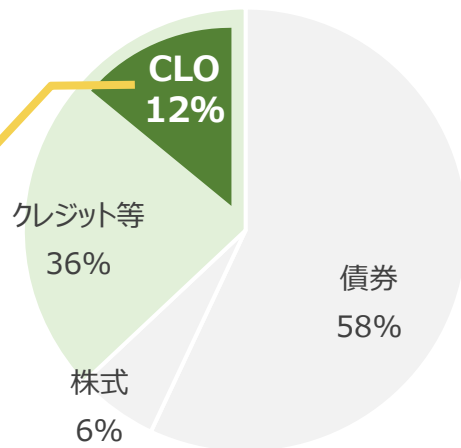
- 詳細な分析や適切なリスク管理態勢の下、リスク・リターンを勘案しながら慎重な投資を実施

投資残高の推移



市場運用資産に占める割合・資産内容

- 市場運用資産の12%
- 全てAAA格
- 全て満期保有目的



※四捨五入のため、各数値の合計が100%とならない場合があります

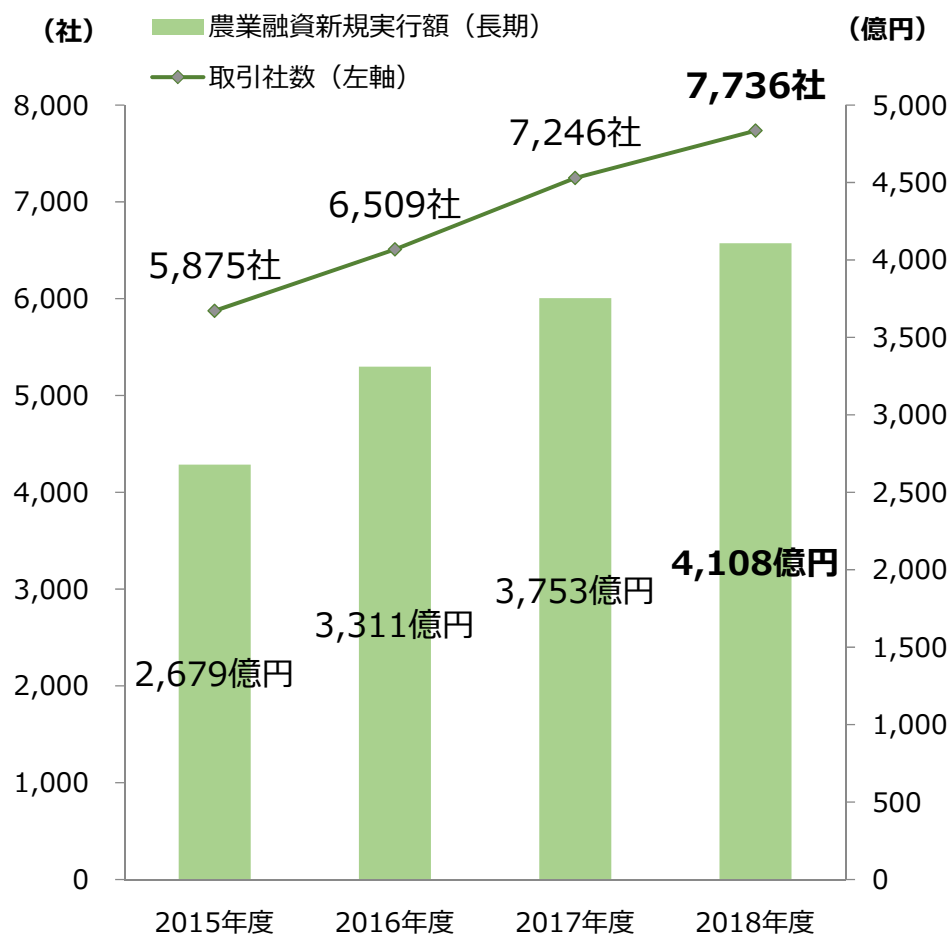
投資にあたっての分析・リスク管理

投資対象	<ul style="list-style-type: none"> • AAA格に限定
裏付資産	<ul style="list-style-type: none"> • 組入可能資産についての厳格な基準設定 • 裏付資産内の個別銘柄・業種の分析
ストラクチャー	<ul style="list-style-type: none"> • 信用補完水準等についての独自ガイドライン • 当金庫独自の厳格なストレステスト • ミドル部門による全件審査
運用マネージャーの選定	<ul style="list-style-type: none"> • 投資前のデューデリジェンスを通じた、運用能力・投資スタンスの確認
投資後のモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> • マネージャーとの綿密なコミュニケーション • 投資ガイドライン遵守状況、運用方針、裏付資産の質等の確認

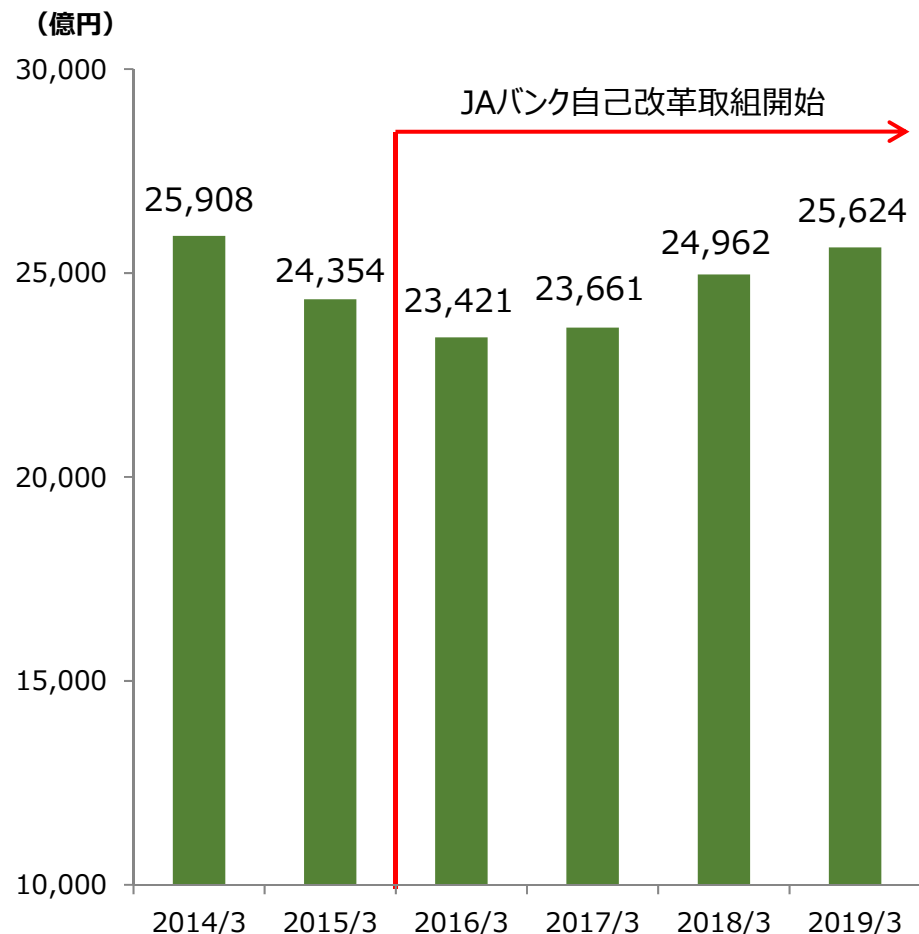
農業関連融資の取組状況

- JAバンクの農業融資は、足元で新規実行額・取引社数ともに増加
- JAバンク自己改革開始後、農業関連融資残高は増加に転じている

農業融資新規実行額と取引社数の推移



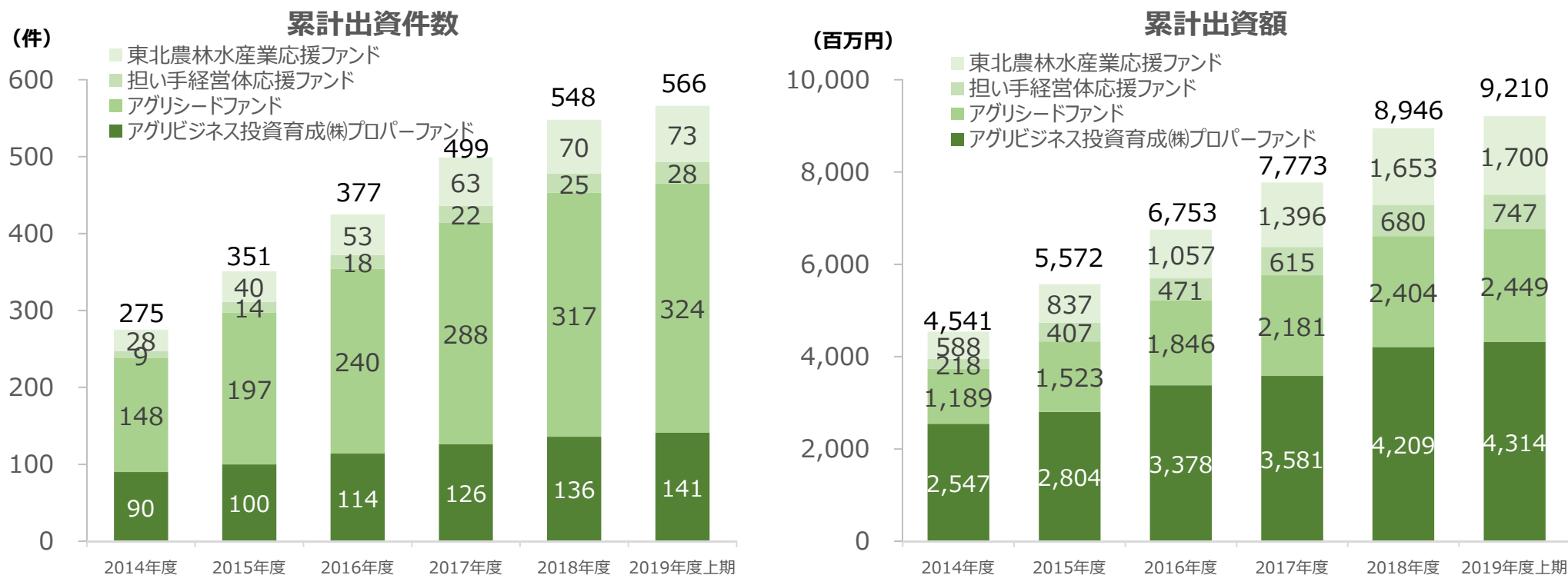
農業関連融資残高の推移



農業法人等へのリスクマネーの供給

- ファンドを通じた農業法人等への出資は累計566件・92億円。担い手の成長ステージに応じた資金ニーズに対応

アグリビジネス投資育成(株)を通じた農業法人等への出資実績



アグリビジネス投資育成(株)

農業法人投資育成制度にかかる業務を行うため、JAグループと日本政策金融公庫の出資により設立された法人

アグリシードファンド

技術力はあるが資本不足の農業法人等に対する、財務安定化のための出資(10百万円以下)を目的とするファンド

担い手経営体応援ファンド

農業法人等の規模拡大に伴う設備投資等のための大型出資(10百万円以上)を目的とするファンド

東北農林水産業応援ファンド (復興ファンド)

被災した農林水産業法人等への資本供与を通じた支援を目的とするファンド

サステナブル経営の取組み

世界銀行が発行するサステナブル・ディベロップメント・ボンドへの投資 (9月19日付プレスリリース)

- フードロス問題の解決を重点テーマとして世界銀行(国際復興開発銀行)が発行するサステナブル・ディベロップメント・ボンドへ5億ドル*の投資を実施
- フードロス問題を重点テーマとする世界銀行債への投資額としては世界最大
- 本投資を通じ、開発途上国のフードロス問題をはじめとした各種課題の解決のみならず、温室効果ガスの排出削減*を通じた気候変動対策にも貢献



*1 現在は累計9.5億ドルまで追加投資を実施

*2 フードロス問題を起因とするCO2排出量は、世界の総排出量8%を占めます。これは、各国別の総排出量と比較した場合、第3位のインドや第5位の日本を上回る規模となっています (出所: FAO(国連食糧農業機関)2015年レポート)

環境方針・人権方針の策定 (10月31日付プレスリリース)

- 当金庫の基本的使命を踏まえ、系統グループと連携のうえ持続可能な社会の実現に貢献していくことを宣言

環境方針のポイント

- 環境問題解決に向けた国際的基準・イニシアティブへの支持・参加を宣言
- 投融資を通じて、環境方針を踏まえた具体的な取組みを実施することを宣言
- 農林水産業を基盤とする金融機関として、「気候変動」と「生物多様性」を特に重要な環境問題と認識し、事業活動を通じて対応していくことを宣言

人権方針のポイント

- 人権課題解決に向けた国際的基準・イニシアティブへの支持・尊重を宣言
- 国連「ビジネスと人権に関する指導原則(ラギーフレームワーク)」の考え方に則り、役職員・お客さま・サプライヤーというバリューチェーン全体の人権を尊重することを宣言

AgVenture Labでの取組み

- 5月の開設以降、「JAアクセラレーター」や各種セミナー等を開催し、累計来所者は約5,000人に

JAアクセラレーター成果発表会 (10月25日)

- JAアクセラレーターは、「食と農とくらしのイノベーション」をテーマとし、スタートアップ企業とともに新規事業の創出を目指すプログラム
- ビジネスプランコンテスト(5月)を通じて応募したスタートアップ192社の中から採択された7社*が取組成果を披露
- アクセラレーター期間中は、JAグループ職員が上記7社の“伴走者”として農業者やJA・関連企業とのマッチング等を支援

* アクプランタ株式会社、株式会社アグロデザイン・スタジオ、inaho株式会社、ACMSコンソーシアム、株式会社OsidOri、株式会社おてつたび、株式会社みらいスクール (五十音順)



スタートアップ企業と“伴走者”による成果発表

福島県×AgVenture Labアイデアソン「来て。未来農業をふくしまからはじめよう。」(10月28日)

- 復興の現状を確かめ、AI・IoT、ロボット技術などを駆使した“未来農業”によって福島の農業を切り拓いていくためのアイデアソンを福島県と共同開催
- 「動き出した福島県の農業復興に、未来農業をビルトインするためのイノベーションとは」をテーマに、産・官・学およびJAグループ職員からなるチームが、被災地における課題解決のアイデアと事業化に向けたプランを作成・発表

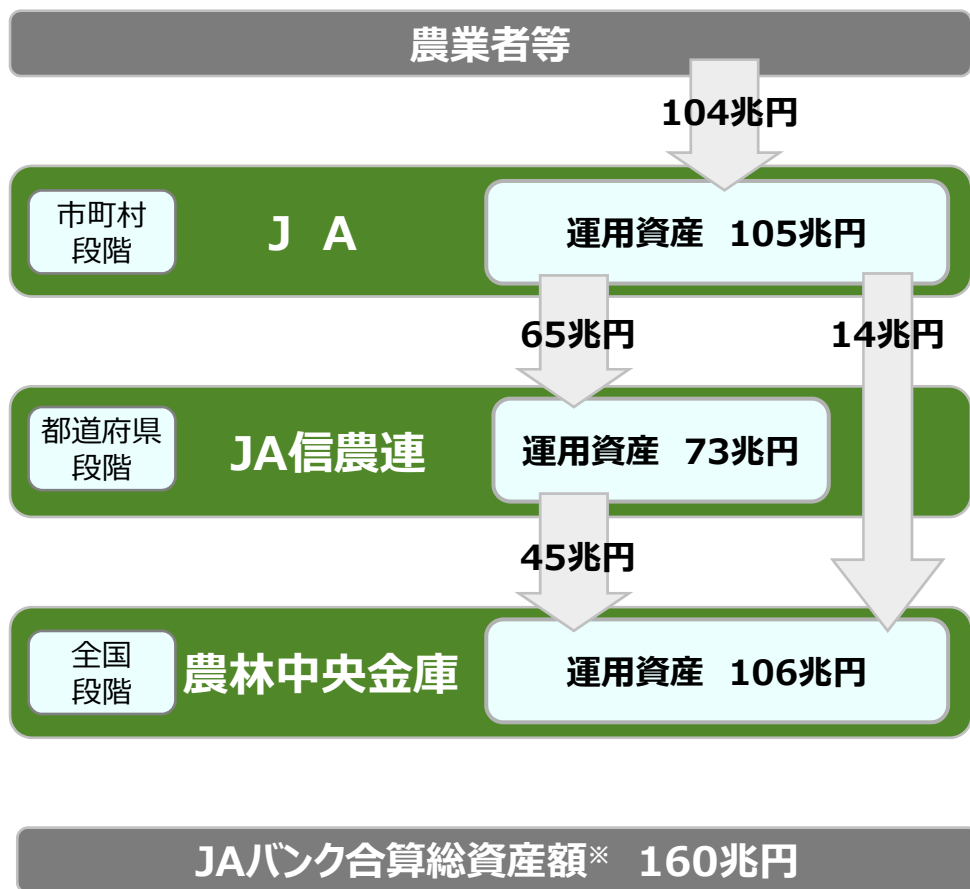
アイデアソン参加者での集合写真



井出副知事のご挨拶

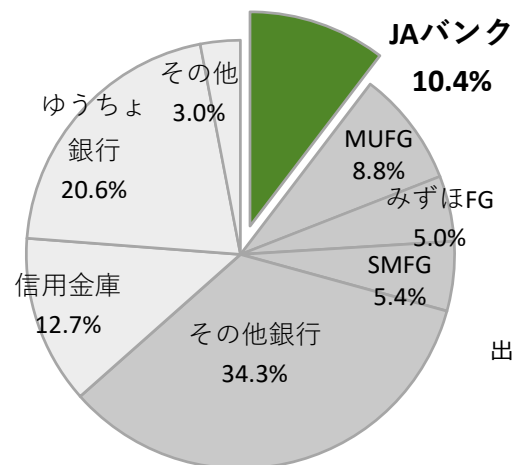
(参考) JAバンクの事業基盤

JAバンクにおける預貯金の流れ (2019年9月末)



※ 合算総資産額 : 運用資産 - 預け金

国内個人預貯金残高シェア (2019年3月末)

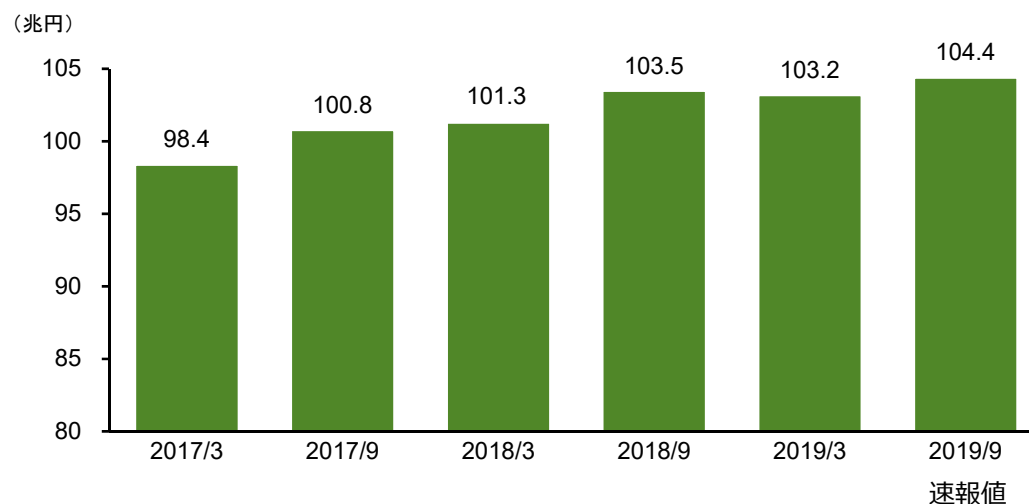


個人預貯金合計 880兆円

出所：日本銀行資料、各金融機関の決算説明資料をもとに農林中央金庫作成
JAバンク、国内銀行及び信用金庫の残高は個人預貯金、ゆうちょ銀行は全貯金額

※四捨五入のため、各数値の合計が100%とならない場合があります

JA貯金残高の推移



ご利用の皆様へ

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等についての検証を行っておらず、また、これを保証するものではありません。弊金庫は、本プレゼンテーション資料に記載されている情報の利用から生じる損害が直接的、また、間接的であるかに関わらず、何ら責任を負いません。
- 本プレゼンテーション資料には、弊金庫に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当金庫が現在入手している情報に基づき、本プレゼンテーション資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提（仮定）の下になされています。これらの記述または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり、または将来実現しない可能性があります。
- 本プレゼンテーション資料は、有価証券の販売のための勧誘を構成するものではありません。